

『五部心観』における五相成身観

——日本密教との関連性——

田 戸 大 智

五相成身観とは、『金剛頂経』系の五段階の瑜伽観法であり、一般的に①通達菩提心、②修菩提心、③成金剛心、④証金剛身、⑤仏身円満と呼称されている。この観法については、既に漢訳經典やチベット文献等を駆使した研究が提示されているが、日本における解釈の展開をめぐっては、十分な検討がなされているとは言い難い。そこで、小稿では、台密の安然が五相成身観と密教の五智（法界体性智・大円鏡智・平等性智・妙觀察智・成所作智）との具体的な対応関係に論及していることを手掛かりとし、その根拠として安然が援用する伝善無畏訳『尊勝仏頂脩瑜伽軌儀』及び般若訳『諸仏境界撰真実経』の両記述が、『五部心観』劈頭に見出される五相成身観の真言と密接な関係にある可能性を検証したい。また併せて、『五部心観』の成立時期についても若干の推測をしたいと考えている。

安然の『菩提心義抄』巻四には、「金剛頂十八会指帰云、初会名一切如来真実撰教王。有四大品。一名金剛界。有

印度學佛教學研究第五十四卷第二号 平成十八年三月

二六曼荼羅。一金剛界大曼荼羅毘盧遮那仏受用身、以五相現等正覚。五相、所謂通達菩提心、修菩提心、成金剛心、証金剛身、仏身円満。此則五智通達云。私云、通達本心即是通達法界体性智。余四如次以達四智云。若尊勝大瑜伽五智品中亦以五相為五相智真言。如云一切如来具足三昧耶真言。通達心。觀菩提真言。亦名大円鏡智。初発心時便成正覚、即法身義。次平等性智真言。金剛心。是心身義。次成所作智真言。仏身円満真言。真。次妙觀察智真言。淨三業真言。真。是妙觀察智真言。實經名法身真言。真。是法身義。亦是後得智法身義。次方便究竟智真言。真。此名方便究竟智。化身之義。或進修門中以方便為究竟、即後得智法身義。此五智後乃用大日如来法界印、己身為毘盧遮那如来之身。頭上五智仏宝冠云。と論じられている。すなわち、『十八会指帰』を引いた後、「私に云く、通達本心は即ち是れ法界体性智に通達す。余の四は次の如く以て四智に達す。」と明記するのであり、これが問題の発端となる。この文から、通達菩提心が法界体性智、修菩提心以降が大円鏡智、平等性

智、妙觀察智、成所作智に各々対応することが推知できよう。更に、安然是両者の対応關係を論証する上で、『尊勝軌儀』巻上の五智品及び『撰真実經』巻中の記述を引用するのである。そこで以下、安然が最も重視する『尊勝軌儀』の当該箇所を示すことにしたい。

尊勝仏頂真言修瑜伽奉獻香華品第四

次獻^二香・華・飲食・燈火等^一。……次以^二真言及印^一護^二身五処^一。真言曰、^④唵^一質多鉢囉^合底吠能迦路耳^五。誦^二此真言^一令^レ住^二一切如来具足三昧耶^一。能弁^二一切諸仏事業^一、速得^二成就^一。

尊勝真言修瑜伽五智品第五

復次修^二瑜伽瑜祇^一者、自住^二妙菩提心^一故、速入^二觀菩提心智^一。觀菩提心真言曰、^⑤唵^一菩地質多牟怛鐸^合那夜弭^三。此名^二發菩提心真言^一、亦名^二大円鏡智^一。速令^レ發^二菩提心^一、初発心時便成^二正覚^一。即是法身之義。

次説^二平等性智真言^一曰、^⑥唵^一底瑟姪^合縛折囉^三。誦^二此真言^一、速令^レ心住^二不散乱^一。即是心身之義。

次説^二成所作智真言^一曰、^⑦唵^一拽他薩囉嚩^合恒他藥多^三婆多^二合他痕^四。

次説^二妙觀察智真言^一曰、^⑧唵^一娑嚩^合婆嚩^二戊入度痕^三。

此名^二妙觀察智^一。是心身之義。亦是後得智法身之義。

次説^二方便究竟智真言^一曰、^⑨唵^一薩囉嚩^合三謨痕^三。

此名^二方便究竟智^一。化身之義。或進修門中以^二方便^一為^二究竟^一。即

是後得智法身之義^④。

ここでは、順に^④通達菩提心、^⑤修菩提心、^⑥成金剛心、^⑦仏身円満、更には^⑧の各真言が付加され、それぞれに五智・三身（法身・心身・化身）が対応されている。但し、五智品とはいえ法界体性智の名が見えなかったり、妙觀察智と成所作智の順序が逆になっていたりと、様々な問題点を有している^⑤。また、^④の真言は五智品ではなく直前の香華品・末尾に含まれ、また^⑥証金剛身の真言が見出されないことも看過すべきではない。なお、『撰真実經』巻中では、^④から^⑨の真言が全て並記されているのであり、特に^⑥の各真言を「報身真言・「化身真言」と説明し、それがそのまま安然の注記に反映されているのが知られる。以上の如く、『尊勝軌儀』では^⑥の真言が欠落しているが、^⑦の真言が付加されているのであり、『撰真実經』には^⑥の真言を含め七種の真言が全て見出される。そして、これらの経軌とほぼ同様の趣旨を説く資料が、『五部心観』なのである。

『五部心観』は、円珍が大中九年（八五五）に法全より付与され、録外で請求した図像資料であり、善無畏系の『金剛頂經』として注目されている。その内容は、『初会金剛頂經』の金剛界品に相当し、第一「金剛界大曼荼羅」から第六「二印曼荼羅」までの六会について、尊像・真言・印等が描写されている。

さて、五相成身観との関係から問題となるのは、劈頭の五仏を図示する箇所である。⁽⁸⁾ここでは、毘盧遮那如来に①、阿閼鞞如来に②③④、宝生如来に⑤、更に無量光如来に⑥、不空成就如来に⑦の各真言が配釈されているのであり、特に⑦⑧の真言を二仏に充当している点は重視すべきである。この⑦⑧の真言をめぐり、既に『撰真実経』との密接な関連性について指摘があるが、⁽⁹⁾上記のことから、『尊勝軌儀』にも五相成身観の真言と共に記載されていることが了解できよう。また、『五部心観』では、五仏と五相成身観の真言を対照させているが、ここから五智との関係も必然的に想起できるのであり、『尊勝軌儀』の内容との近似性も見て取れるのである。

ところで、『五部心観』では、五仏が七頭の鳥獣座（獅子・象・馬・孔雀・迦楼羅）に坐している。鳥獣座は、『金剛頂中略出念誦経』巻一に依拠するとされるが、そこには七頭に關する記述は見られない。このことに言及するのが、実は『尊勝軌儀』なのであり、例えば、巻上に「中円画毘盧遮那如来一頭戴五仏冠種種宝華光。於七師子座上結跏趺坐、手結法界印。」⁽¹⁰⁾とあり、毘盧遮那如来が七師子座に乗ることが説示されている。ともあれ、『五部心観』と『尊勝軌儀』には、いくつかの類似点が認められるのである。

『尊勝軌儀』は、巻下の冒頭に「今略金剛頂・大毘盧遮那經・并釈義十卷、蘇悉地・蘇摩呼・如意輪・七俱胝・瞿薩且

『五部心観』における五相成身観（田 戸）

恒羅・不空羂索等經、撰集壇義、拳二法一現其三種。」⁽¹²⁾とあることから、善無畏訳とは到底容認できない。中国の目錄にはその名が見えないが、日本では円行・惠運・宗叡が請来している。但し、唐・武徹の「加句靈驗仏頂尊勝陀羅尼記」では、長慶三年（八二三）に敷秋滿という人物が「兼更伝尊勝瑜伽両卷。」と述べられている。このことから、その成立を中・晚唐期とする見解があるが、⁽¹⁴⁾恐らく八〇〇年前後の成立と推測される。一方、般若訳「撰真実経」については、『尊勝軌儀』と同様、中国の目錄からその名を検索できず、従来の研究によれば、元和元年（八〇六）空海帰国後から、元和五年（八一〇）『大乘本生心地観経』を訳し始める前までの訳出と考えられている。⁽¹⁵⁾このように、『尊勝軌儀』及び『撰真実経』は、ほぼ同時期の成立を推量できるのであり、上来検討してきた五相成身観における近似性の面を勘案すれば、現存の『五部心観』の成立も、八〇〇年前後と把握することも可能と思われる。但し、これらの前後関係については、現時点では不明と言わざるを得ない。

『五部心観』の成立をめぐることは、前半を善無畏撰、後半を後の補完と捉え、少なくとも六会具足の『五部心観』は八〇五年頃までの成立とする説や、七五四年から七五五年にかけて制作された「新羅華嚴經変相図」に七獅子座の毘盧遮那如来像があることを論拠として、その選者を善無畏及びその

周辺とする説等、様々な見解が主張されている。¹⁶⁾ いずれにせよ、八世紀中頃の七頭に乗る尊像が韓国に遺存していることは、『五部心観』の成立をそれ以前とする有力な根拠と言える。また、善無畏が『金剛頂経』に関する知識を有していたことも事実であり、独自の梵本から『五部心観』を図示したことも十分想定できることである。更に、多角的な視点に立脚して考察する必要があるとはいえ、五相成身観をめぐる『尊勝軌儀』及び『撰真実経』との関連性から、現存の『五部心観』が果たして善無畏にまで遡及できるものかについて、若干の問題提起を行った次第である。

1 坂野栄範「五相成身観の体系的研究―特に経軌の上に於けるその成立の考察―」(『金剛頂経に関する研究』所収)、酒井真典「五相成身観のチベット伝訳資料」(『酒井真典著作集』巻三所収)等、参照。

2 大正七五・五二八頁上中。なお、安然の解釈は、東密の済遁に決定的な影響を与えている。例えば、『金剛界大儀軌肝心秘訣抄』巻中(真全二四・三五頁下〜三六頁上)・『五相成身義問答抄』(大正七八・一〇七頁下〜一〇八頁上)等、参照。

3 大正一八・二八四頁下。

4 大正一九・三七〇頁下〜三七二頁下。

5 この問題については、円珍の『疑問』巻上(仏全二七・一〇一頁上下)や『些些疑文』巻上(仏全二七・一〇四六頁下)等に指摘がある。

6 大正一八・二七三頁中〜二七五頁中。

7 従来の研究は、主に大村西崖、小野玄妙、田中一松、高田修等の美術研究者によって進められてきた。就中、小野玄妙が「惺多僧藥五部心観の研究」(『小野玄妙^{佛教学}著作集」巻九所収)で、本書の註釈書である『六種曼荼羅略釈』二巻を紹介し、その序の内容から善無畏が独自の『初会金剛頂経』梵本を所持していた可能性が勘考されるようになった。

8 大正図像二・七五頁〜七七頁。

9 八田幸雄『五部心観の研究』(九三頁〜九五頁)参照。

10 大正一八・二二七頁中下。

11 大正一九・三七六頁上。巻上、大正一九・三七〇頁中。このことについては、朴亨國『ヴァイローチャナ仏の図像学的研究』(三四八頁〜三九六頁)参照。

12 大正一九・三七七頁下。

13 大正一九・三八七頁上中。

14 長部和雄『唐代密教史雑考』(二七頁〜三六頁)参照。

15 頼富本宏『中国密教の研究』(三二頁、八六頁〜九三頁)参照。

16 八田幸雄『五部心観』の作者について(『印仏研』四三一頁)、林・前掲著(三五四頁)参照。また、水野敬三郎「西安大安国寺遺址出土の宝生如来像について」(『佛教藝術』一五〇)では、八世紀中頃制作と推測される大安国寺出土・宝生如来像の台座に七頭の馬が彫刻されていることが報告されている。

(キーワード) 五相成身観、五部心観、尊勝仏頂脩瑜伽法軌儀、諸仏境界撰真実経、菩提心義抄、安然、円珍

(早稲田大学大学院)

130. The Five *Abhisambodhi* as Described in the *Wubu xinguan* and Japanese Esoteric Buddhist Correlations

Taichi TADO

This paper first examines the five *abhisambodhi* (stages of meditation to attain buddhahood) as described in the opening passage of the *Wubu xinguan*. I then verify that this conception of the five *abhisambodhi* is connected closely with that elucidated in both the *Zunsheng foding xiuyujiafa guiyi* (T. 973), the translation of which is attributed to Śubhakarasiṃha, and the *Zhufo jingjie shezhenshi jing*, translated by Prajñā. I conclude with thoughts on the dating of the *Wubu xinguan*'s formation.

131. Raihō's *Kyōgenshō*

Tadashi CHIBA

Raihō is the preist of the Shingon Sect belonging to the 14th century, master of Gōhō, and an advocate of the Tōji doctrine. I want to introduce a new manuscript of the *Kyōgenshō* by Raihō. The manuscript was written in the early Edo period, and was copied on Mt. Kōya. The *Kyōgenshō* describes the Sokushin jōbutsu theory.

132. Saisen's Interpretation of the *Shi moheyan lun*: Focusing on the interpretation of funi-mon

Yūgo TOYOSHIMA

The Shingon school in Japan attached importance to the *Shi moheyan lun* (Jap.: *Shaku makaen ron*), a commentary on the *Dacheng qixin lun* (Awakening of Faith) ascribed to Nāgārjuna, because the founder Kūkai used it many times in his works. Saisen (1025-1115), a scholarly monk of the Shingon school in the later Heian period, left a commentary on a part of the *Shi moheyan lun*. One of the characteristics of his commentary is that non-dual Mahāyāna (funi makaen) is active and has an entrance gate for non-duality